西大寺薬師金堂の調査（平城第422次）

今回の調査は、奈良市西大寺小坊町にある浄土院境内において実施しました。浄土院境内はかねてより西大寺薬師金堂の基壇跡と考えられてきました。

今回はまず南北3ｍ、東西15mの調査区を設定し、後に中央部を北に拡張して調査を行いました。調査は4月16日より開始しました。

表土を除去すると、薬師金堂の基壇面を確認することができました。そしてその基壇を掘り込んで、凝灰岩を2個据え付けた穴が東西に2基並ぶ状況を確認することができました。これらの穴は薬師金堂の礎石を据え付けるための「壺掘地業」の痕跡と判断できます。これらの穴の西側でも2箇所で大きな抜取穴を確認しました。これらの抜取穴と地業の痕跡がほぼ15尺等間で並ぶことから、これらが薬師金堂の身舎（もや）の痕跡にあたると想定できます。さらに、身舎の北側においても礎石の据付穴および抜取穴を2箇所で検出しました。身舎との柱間は12尺で、北側の庇にあたると考えられます。これらの庇の据付穴の中にも、凝灰岩が確認できました。なお、南側の庇に関しては大きく基壇が削られていたため、痕跡を確認することができませんでした。

奈良時代に記された『西大寺資財流記帳（るきちょう）』によると、薬師金堂は東西119尺、南北53尺の非常に大型の建物と記されていますが、今回の調査で初めてその詳細な実態を明らかにすることができました。

（都城発掘調査部　林 正憲）

薬師金堂・身舎北側柱列の状況（西から）